

知里真志保生誕100年を記念して

～アイヌ民族衣装展「ピリカノカ」～

2月14日(土)、15日(日)の2日間、鉄南ふれあいセンターで『アイヌ民族衣装展「ピリカノカ」』（ウタリ協会登別支部、知里真志保を語る会主催）が開催されました。

この催しは、アイヌ民族文化の伝承と啓発活動として毎年実施しているもので、今年は、『ミプ（着物）』といった伝統作品や現代風にアレンジしたバッグなど、約200点が展示されたほか、14日には登別市出身のアイヌ言語学者、知里真志保の生誕100年を記念した講演会が行われました。

講演会では、知里真志保書誌編集者の出村文理さんを講師に招き、『北大時代の知里真志保先生～分類アイヌ語辞典の刊行を中心に～』をテーマに講演。出村さんは、「知里先生は、北大初の文学博士になり、北大文学部に新たに言語学講座を設置した。もし『分類アイヌ語辞典』が第5編まで完成していれば、間違いなく文化功労賞を受賞していた」と、その素晴らしい功績について力説していました。

また、講演会終了後は、登別古式舞踊保存会による古式舞踊が披露され、集まった参加者を魅了していました。



▲知里真志保書誌編集者の出村文理さん



▲古式舞踊保存会による古式舞踊

青天の下、親子で雪遊び

～2009カルルス温泉冬まつり～



3月1日(日)、サンライバスキー場で『カルルス温泉冬まつり』（同実行委員会主催）が行われ、約1,500人が参加しました。

この催しは、サンライバスキー場で毎年行われる冬の一大イベントで、この日は『スキー大会』や『無料スキー・スノーボード講習会』、『歩くスキーの集い』のほか、親子で参加できる『雪中みかん拾い』『親子ボブスレー大会』『ストライクワン』『ホールインワン』『オロフレ雪原宝探し』『雪上もちまき』など、多彩なイベントが行われました。

親子ボブスレー大会では、子ども以上にお父さんやお母さんが大ハッスル。50組の親子が参加し、冬のゲレンデで熱戦が繰り広げられていました。

最新の医療現場を学んで再就職

～再就職支援セミナー～

3月11日(木)から13日(金)までの3日間、登別厚生年金病院で『再就職支援セミナー』（市主催）が開催され、未就業の看護師5人が参加しました。

このセミナーは、看護師不足が問題となっている中、育児などの事情で臨床現場から離れている看護師さんに、最新の情報や知識・技術を学んでもらい、現場復帰に役立ててもらおうと、今回初めて開催したものです。

セミナーでは、最新看護の動向などの講義や、実際に点滴のルート確保などを体験。1年から20年のブランクがある参加者は、最新の医療器具に戸惑いながらも、その便利さに感心していました。

参加者は「出産で仕事を離れていました。覚えることが多くて不安ですが、再就職に向けてがんばります」と話してくれました。

